

農業分野におけるドローン活用の事例

ドローンの農薬散布によるスクミリングガイ（ジャンボタニシ）の防除実証

取組主体名：JA三島函南 三島函南農業用マルチローター利用組合（静岡県 三島市）

実証概要

- JA三島函南管内では、水稻の食害を引き起こす「スクミリングガイ」が数年ほど前から確認され、水稻への深刻な被害を受けていた。
- 各農家が捕殺や薬剤散布を手作業で行い、被害の拡大を抑えていたが、農業者の作業負担が大きく省力的な防除体系の確立が求められ、ドローンの農薬散布による「スクミリングガイ」の防除実証を初めて実施。

実証時期		2020年6月
対象作物・実証面積		水稻 350a
使用薬剤		ジャンボたにしくん (メタルアルデヒド粒剤)
作業時間 (分/10a)	ドローン	10分/10a
	(手作業)	(30分/10a)
経費 (10a換算)	ドローン	5,890円
	(手作業)	(3,390円)
経費内訳 (10a換算)	ドローン	・オペレーター委託費3,000円 ・薬剤費2,890円
	(手作業)	・労働費500円 (時給1,000円×0.5時間) ・薬剤費2,890円



スクミリングガイへの農薬散布

取組結果

- ドローン防除を取り入れたことで薬剤散布にかかる作業時間が3分の1に短縮。
- 共同防除を行うことで、地域内一斉で防除の気運が高まり、区域内のスクミリングガイ発生密度の抑制が期待。